

大阪大学運営方針会議（令和6年度 第3回）議事要旨

日 時 令和7年3月5日（水）10時00分～11時50分

場 所 オンライン会議

出席者 井野瀬委員（議長）

西尾総長

ビール、大石、津賀、永井、安浦、金田、田中 各委員

（陪席者）尾上、福田、井上 各理事

議事に先立ち、井野瀬議長から、前回（令和7年2月5日開催）の議事要旨について、内容を確定次第ホームページで公表する旨報告があった。

議 事

1 国際卓越研究大学に係る公募に向けた検討状況について

西尾総長及び尾上理事から、配付資料に基づき報告があった。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

- 地域との連携という観点から、近隣大学との連携や役割分担も検討する必要があるのではないかな。
- 他国で可能な実証実験が日本では難しいことがあり、そういった課題にも踏み込んで国の政策を動かすような提案があってもよいのではないかな。
- 事業化の際は、企業側の視点にも立って、企業側のメリットや、新たな活動に合わせた資金循環を作り出す、お金の流れを変えることも含めて、経営モデルの提示ができるとうよいのではないかな。
- 研究力強化のための環境を全学展開していくうえでは、新たな活動に合わせた価値等の創造という点で、文系の研究者も巻き込んだ総合知として取り組むことが有効ではないかな。
- サーキュラーエコノミーへの移行をはじめ、社会や産業の構造が変化している中で、それに対応するパラダイムチェンジを創造、発信することが必要であるとともに、その見せ方も重要になるのではないかな。
- 「治験で論文は書けても産業にならない」という事態にならないように、構想の実行段階においては、社会につなぎ、ビジネスとして成り立たせるという観点から、大学がどのように治験等に取り組むか、研究者と企業がどのように組んでやっていくか等について見直すことが必要になるのではないかな。
- ベンチャー企業等に転出した研究者が再度大学に戻ってくる、あるいは博士課程に社会人が多く入学するなど、新たな人の流れを作り出すことも重要であり、研究者や学生から選ばれる大学という、「人」を前面に出すべきではないかな。制度や仕組みに注力する一方で、民間寄りの大阪大学らしさが見えづらい。
- 若手の留学等が減少している現状を踏まえ、学部学生や若手研究者の交流を国内外で積極的に進めることを強調してはどうか。
- 海外の大学や企業が魅力を感じられるよう、海外に対して大阪大学にしかできないことをアピールしていく必要があるのではないかな。

2 令和7年度予算（案）について

西尾総長及び福田理事から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、これを決議した。
本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

- 今後、どのように寄附を増やして大学の収入増につなげるか、社会を巻き込む発信を含めて、大きな課題となるのではないか。
- 大学病院の経営が極めて難しい状況であり、経営管理には特に注意いただくとともに、研究マインドをも大切にしてもらいたい。
- 病院の経営改善については、現場のみならず、大学執行部が客観的な立場から抜本的な方策を考える必要があるのではないか。改善の余地はまだまだある。今だからこそ引いた目で見直すことが大切だと思われる。

【その他】

3月末をもって退任となる西尾総長から、退任に係る挨拶があった。

(以 上)